

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成23年4月14日(2011.4.14)

【公開番号】特開2009-171985(P2009-171985A)

【公開日】平成21年8月6日(2009.8.6)

【年通号数】公開・登録公報2009-031

【出願番号】特願2009-113021(P2009-113021)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

G 0 1 N 33/15 (2006.01)

G 0 1 N 33/50 (2006.01)

G 0 1 N 33/68 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 15/00 F

C 1 2 Q 1/68 A

G 0 1 N 33/15 Z

G 0 1 N 33/50 Z

G 0 1 N 33/68

【手続補正書】

【提出日】平成23年2月24日(2011.2.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

肺細胞の腫瘍状態の診断の基礎となる情報を提供する方法であって、
肺細胞サンプルにおいて、P G P 9. 5、8-オキソー d G T P アーゼ及び p 6 7 からなる群より選ばれる過剰発現した癌原遺伝子の存在を検出する工程、
を含み、前記過剰発現が前記肺細胞の腫瘍状態を示していることを特徴とする方法。

【請求項 2】

前記癌原遺伝子が P G P 9. 5 である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記癌原遺伝子が 8-オキソー d G T P アーゼである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記癌原遺伝子が p 6 7 である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記過剰発現した癌原遺伝子の存在を、前記癌原遺伝子から転写された m R N A の量を検出することにより決定する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記検出を、配列：CAGTCTAAAA（配列番号 2）又はその相補物を含むプローブ又はプライマーを用いてサンプルを探索することにより決定する、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 7】

前記検出を、配列：TGGCCCGACG（配列番号 3）又はその相補物を含むプローブ又はプライマーを用いてサンプルを探索することにより決定する、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 8】

前記検出を、配列：TAATACTTTT（配列番号 4）又はその相補物を含むプローブ又はプライマーを用いてサンプルを探索することにより決定する、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 9】

前記過剰発現した癌原遺伝子の存在を、mRNA の逆転写により生成した cDNA の量を検出することにより決定する、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 10】

前記過剰発現した癌原遺伝子の存在を、前記癌原遺伝子によりコードされるポリペプチド又はタンパク質の量を検出することにより決定する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 11】

前記腫瘍状態が非小細胞肺癌である、請求項 1 ～ 10 のいずれかに記載の方法。

【請求項 12】

肺細胞の腫瘍状態を逆転するための潜在的な治療薬を同定する方法であって、
前記肺細胞が PGP9. 5、8-オキソ-dGTPアーゼ及び p67 からなる群より選ばれる癌原遺伝子の過剰発現により特徴付けられ、
前記肺細胞を含むサンプルと潜在的な薬剤とを接触させる工程、及び、
前記肺細胞の腫瘍状態の逆転をアッセイする工程、
を含み、
前記腫瘍状態の逆転が前記潜在的な薬剤を潜在的な治療薬として同定することを特徴とする方法。

【請求項 13】

前記癌原遺伝子が PGP9. 5 である、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 14】

前記癌原遺伝子が 8-オキソ-dGTPアーゼである、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 15】

前記癌原遺伝子が p67 である、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 16】

PGP9. 5 の存在を検出するためのプローブ又はプライマーであって、配列：CAGTCTAAAA（配列番号 2）又はその相補物を含むことを特徴とするプローブ又はプライマー。

【請求項 17】

8-オキソ-dGTPアーゼの存在を検出するためのプローブ又はプライマーであって、配列：TGGCCCGACG（配列番号 3）又はその相補物を含むことを特徴とするプローブ又はプライマー。

【請求項 18】

p67 の存在を検出するためのプローブ又はプライマーであって、配列：TAATACTTTT（配列番号 4）又はその相補物を含むことを特徴とするプローブ又はプライマー。

【請求項 19】

ポリヌクレオチドが 10 ～ 100 の長さを有する、請求項 16 ～ 18 のいずれかに記載のプローブ又はプライマー。

【請求項 20】

ポリヌクレオチドが 50 ～ 100 の長さを有する、請求項 16 ～ 18 のいずれかに記載のプローブ又はプライマー。

【請求項 21】

ポリヌクレオチドが 50 ～ 75 の長さを有する、請求項 16 ～ 18 のいずれかに記載のプローブ又はプライマー。

【請求項 22】

請求項 16 ～ 21 のいずれかに記載のプローブ又はプライマー又はこれらの相補物からなる固相担体。

【請求項 23】

請求項 1 に記載の診断方法における使用のためのキットであって、

固体担体に固定化した請求項 1 6 ～ 2 1 のいずれかに記載のプロープ又はプライマの 1 つ以上、及び、

肺細胞の腫瘍状態の診断における補助に使用するための説明書、
を適切な包装中に含むことを特徴とするキット。

【請求項 2 4】

肺細胞の腫瘍状態の診断の基礎となる情報を提供する方法であって、
肺細胞サンプルにおいて、過剰発現した癌原遺伝子 b - m y b の存在を検出する工程、
を含み、前記過剰発現が前記肺細胞の腫瘍状態を示していることを特徴とする方法。

【請求項 2 5】

前記過剰発現した b - m y b 癌原遺伝子の存在を、前記 b - m y b 癌原遺伝子から転写された m R N A の量を検出することにより決定する、請求項 2 4 に記載の方法。

【請求項 2 6】

前記検出を、配列：TGCTGCCCTG（配列番号 1）又はその相補物を含むプロープ又はプライマーを用いてサンプルを探索することにより決定する、請求項 2 4 に記載の方法。

【請求項 2 7】

前記過剰発現した癌原遺伝子の存在を、m R N A の逆転写により生成した c D N A の量を検出することにより決定する、請求項 2 5 に記載の方法。

【請求項 2 8】

前記過剰発現した癌原遺伝子の存在を、前記癌原遺伝子によりコードされるポリペプチド又はタンパク質の量を検出することにより決定する、請求項 2 4 に記載の方法。

【請求項 2 9】

前記腫瘍状態が非小細胞肺癌である、請求項 2 4 ～ 2 8 のいずれかに記載の方法。

【請求項 3 0】

肺腫瘍細胞の細胞分裂の防止、肺腫瘍細胞の腫瘍形成能の低下又は肺腫瘍細胞の薬剤耐性の喪失のための潜在的な治療薬を同定する方法であって、

前記細胞が癌原遺伝子 b - m y b の過剰発現により特徴付けられ、
前記細胞を含むサンプルと潜在的な薬剤とを接触させる工程、及び、
前記肺腫瘍細胞の細胞分裂の防止、肺腫瘍細胞の腫瘍形成能の低下又は肺腫瘍細胞の薬剤耐性の喪失についてアッセイする工程、
を含み、

前記肺腫瘍細胞の細胞分裂の防止、肺腫瘍細胞の腫瘍形成能の低下又は肺腫瘍細胞の薬剤耐性の喪失が前記潜在的な薬剤を潜在的な治療薬として同定することを特徴とする方法。

【請求項 3 1】

肺腫瘍細胞における b - m y b の存在を検出するためのプロープ又はプライマーであって、配列：TGCTGCCCTG（配列番号 1）又はその相補物を含むことを特徴とするプロープ又はプライマー。

【請求項 3 2】

ポリヌクレオチドが 1 0 ～ 1 0 0 の長さを有する、請求項 3 1 に記載のプロープ又はプライマー。

【請求項 3 3】

ポリヌクレオチドが 5 0 ～ 1 0 0 の長さを有する、請求項 3 1 に記載のプロープ又はプライマー。

【請求項 3 4】

ポリヌクレオチドが 5 0 ～ 7 5 の長さを有する、請求項 3 1 に記載のプロープ又はプライマー。

【請求項 3 5】

請求項 3 1 ～ 3 4 のいずれかに記載のプロープ又はプライマー又はこれらの相補物からなる固相担体。

【請求項 3 6】

請求項 2 4 に記載の診断方法における使用のためのキットであって、
固体担体に固定化した請求項 3 1 ～ 3 4 のいずれかに記載のプローブ又はプライマーの
1 つ以上、及び、
肺細胞の腫瘍状態の診断における補助に使用するための説明書、
を適切な包装中に含むことを特徴とするキット。